●月刊かみのやま巻頭企画

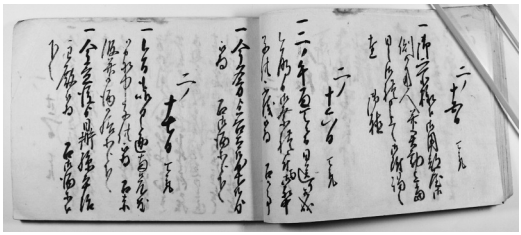
「上山城（おしろ）」からのたより 厳冬・第175号

上山藩士は二月の「午の日」をどう過ごしていたのか

（公財）上山城郷土資料館 学芸員　長南伸治

二月最初の「午の日（うまのひ）」には、全国各地の稲荷神社で米の豊作を祈るお祭りが行われています。ちなみに、みなさんが過ごす一日一日には、古くから干支の名がついていて、現在でも市販のカレンダーには「子・丑・寅…」と干支を示す漢字が書いてあるタイプのものもあります。今度じっくり眺めて見てください。

話を「午の日」のお祭りに戻します。ではなぜ、そのようなお祭りが二月に行われるようになったのか。その理由は、まず、全国の稲荷神社の総本宮「京都伏見稲荷大社」の祭神が現在の京都稲荷山に最初に祀られたのが和銅四（七一一）年二月最初の「午の日」であったこと、さらに、稲が立派に成長することを「いなり」と呼ぶことから、それらが掛け合わされ、二月の「午の日」に稲荷神社で豊作を祈るお祭りが行われるようになったと言い伝えられています。



「弘化五戊申年従正月　大殿様大奥様御用留」
（上山市教育委員会所蔵／上山城保管）

さて、それでは江戸時代、上山の武士たちはどのように二月の「午の日」を過ごしていたのでしょうか。上山藩士の日記（上山藩士三輪家旧蔵・上山城保管／掲載画像参照）を見ると、弘化五（一八四八）年二月の「二ノ午」（同月中の二度目の午の日）には豊作を願う祭礼を行い、さらに藩からは赤飯や酒など豪華な御膳が、藩士のみならず、その子供達に至るまで広く振る舞われたとの記録を確認することができます。

おそらく、当時は米の収量が藩財政に大きな影響を与える世の中だったため、豊作を願う気持ちは、現代の我々では計り知れないほど大きなものであったと思われます。藩の大盤振る舞いっぷりに、その願いの強さが表れているといえるでしょう。

なお、今年二月の「午の日」は十二・二十四日です。その日には赤飯やお酒など、豪華な御膳を周囲の人に振る舞ったり、または、ご自身で召し上がったりしてみてはいかがでしょうか？少しだけ上山藩士の気分が味わえるかもしれませんよ（だからといって、お酒をお子様に振る舞うのはダメですよ！）。

【常設展示室から】抽選で景品が当たる〝クイズ上山城探検〟を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。